

## 「防災検定」を実施

### 広島市 土砂災害の被災地で初

#### 意識向上へ中学生が「問題」に挑戦

広島市安佐南区の市立城山北中学校で1月29日、防災に関する知識を問う「ジュニア防災検定」が実施された。2014年の広島土砂災害被災地での検定は初めて。

同校は、14年の土砂災害で生徒1人が死亡。自宅が被災した生徒もあり、この日検定を受けた2年生161人は真剣な面持ちで試験問題に挑戦した。

検定に先立ち、一般財団法人防災検定協会の濱口和久事務局長が講演した。濱口氏は、『災害は忘れた頃にやってくる』と言うが、ここ数年、日本全国でさまざまな災害が起きている。日本列島に関して言えば『災害は忘れる前にやってくる』との意識を持ち、行動してほしい」と強調。「世界のマグニチュード6以上の地震の約20%が日本で起こっている」と述べ、家具の固定などの備えに取り組むよう訴えた。

その後、生徒らは検定の上級（中学2、3年レベル）を受験。時間雨量100ミリの雨が発生した回数の移り変わりから、土砂災害が今後起こる可能性を予測させる問題や、東日本大震災の津波発生時に岩手県釜石市の小・中学生が迅速に避難し、多くの命が守られた「釜石の出来事」に関する問題などが出題された。

検定は、この日の試験に加え、防災について家族で話し合った内容をまとめる事前課題と、事後課題として取り組む防災をイメージするシンボルマークの作成を合わせて審査し、総合評価が70点以上で合格となる。

受験を終えた生徒会長の竹下咲音さんは、「学んだことを生かし、災害に対処できるようにしたいと思っ

た」と話した。

ジュニア防災検定は東日本大震災の発生後に、子どもの防災意識向上を目的として 13 年にスタート。協会によると今年度の受検者数は全国で約 6000 人を見込み、累計では約 1 万 1900 人になるという。

城山北中での検定実施に協力した「防災を考える会ひろしま」の原田照美会長は、「昨年検定を受けた広島市立戸山小学校と戸山中学校はハザードマップづくりなどに取り組み、子どもの意識が高まったと思う。今後も検定の受検校が増えてほしい」と語っていた。